

# 韓国語の第一音節におけるアルタイ祖語の \*o について

大 林 直 樹

## 1. はじめに

アルタイ語と韓国語の母音の対応の問題において、祖語の \*a には a が、\*e には ɛ が、また \*i, \*ī の二つの母音には i がそれぞれ対応していると見られることについてはあまり異論もないように思われるが、アルタイ祖語の残る四つの円唇母音 \*o, \*ö, \*u, \*ü については事情が幾分複雑なようである。そのうち、アルタイ祖語の第一音節の母音 \*o が韓国語においてどのように反映しているかという問題は、これまで幾人かの研究者によって、母音体系全体の対応を考察する過程においてではあるが、幾度となく取り扱われてきた。その大方の結論は、「\*o は中期韓国語においては ʌ としてあらわれている」ということかと思われる<sup>1)</sup>。しかし、本稿の筆者はこのような \*o : ʌ といった一対一の対応を認めることのみでは真実に近づくことができないのではないかという疑問を以前からもっていた。そこには、あまりにも多くの例外が目についたからである。そこで本稿では、これまでに韓国語とアルタイ諸語との比較の対象に挙げられてきた語彙を再吟味して祖語の第一音節の \*o の韓国語においてのあらわれ方について再検討してみようとする。比較対応例は、これまでの諸研究からできる限り網羅的にとりあげるように努めたが、比較の信憑性が疑われるような例は、筆者の判断により取捨選択をおこなった。したがって、これまでの諸研究において取り扱われた比較対応例は、実際には以下に示す例よりも、少なくともその二倍近くになるということを念頭に置いていただきたい。また、本稿においてはじめて提起される新しい比較も若干含まれている。以下に見ていくように、アルタイ祖語の第一音節の \*o は中期韓国語においてきわめて多様なあらわれ方を示している。

## 2. 祖語 \*o : 韓国語 ㅏ の対応

(1) 中韓<sup>2)</sup> bArg- (平)<sup>3)</sup>「明るい」: エベンキ語 *borkan*「美しさ」, オロチ語 *bokko*「色」, ウデヘ語 *boko*「同」, ウイルタ語 *botčo~boččo*「色, 姿」, ナーナイ語 *bojko*「色」, 満州語 *boco*「色, 姿, 美しさ」。

(2) 中韓 bAri- (平去)「捨てる」: 蒙古文語 *boli-*「やめる, やむ」, ハルハ・モンゴル語 *boli-*「同」(Poppe 1950: 576)。

(3) 中韓 bAy (去)「腹」: 蒙古文語 *boda*「物体, 物質, 本体」, ハルハ・モンゴル語 *bod*「同」: ウイグル語 *bod*「体」, チャガタイ語 *boj*「体, 体格」。

(4) 中韓 bAzAy- (平去)「眩しい」: エベンキ語 *hōsin-*「火花が散る」, ラムート語 *hoh ən-*「同」, オルチャ語 *posin-*「同」, ナーナイ語 *posin-*「同」, 満州語 *foso-*「照る, 輝く, 太陽が出る」(Lee 1958: 110)。

(5) 中韓 čAm- (去)「耐える, 忍ぶ」: ネギダル語 *ʒobo-*「困窮する」, オロチ語 *ʒobo-*「同」, ウデヘ語 *ʒo-*「同」, オルチャ語 *ʒobo-*「同」, ウイルタ語 *ʒobbo-*「同」, ナーナイ語 *ʒobo-*「働く, 困窮する」, 満州語 *jobo-*「苦しむ, 憂える」: 蒙古文語 *ʒoba-*「苦しむ, 心配する」, ハルハ・モンゴル語 *ɖow-*「同」, ブリヤート語 *zobo-*「同」。ここに挙げられたツングース語およびモンゴル語の諸形式は以前に日本語 *yowa-*「弱る」と比較されたことがある(村山七郎 1988: 55)が, 韓国語との関連で取り上げられるのは本稿がはじめてかと思われる。

(6) 中韓 dAd / r- (平)「走る」: 満州語 *dori-*「(馬などが) 駆ける, 走る」(Lee 1958: 108)。

(7) 中韓 dAr (去)「月」: オルチャ語 *tōli*「シャーマンが身に着ける金属製の円盤状の飾り」, ウイルタ語 *toli*「同」, ナーナイ語 *toli*「同」, 満州語 *toli*「鏡」: 蒙古文語 *tolin*「同」, ハルハ・モンゴル語 *tol*「同」, ブリヤート語 *toli*「同」(Ramstedt 1982: 193)。

(8) 中韓 dArg (平)「鶏」: チャガタイ語 *toryai*「小鳥」, 中期チュルク語 *toryya*「ヒバリ」, オスマン・トルコ語 *duryai, dujyar*「籠で飼う」鳥」(Starostin 1991: 274)。スターロスチンはこの比較に日本語 *tori*「鳥」も加えている。

(9) 中韓 dAri (平平)「橋」: 満州語 *doorin*「(埠頭から船に渡す) 渡り板」(Lee 1958: 107)。

(10) 中韓 dAz- (平)「愛する」: 満州語 *doshon*「寵愛」, *dosholo-*「寵

愛する」(Lee 1958:108)。

(11) 中韓 gAd (去)「(～の)如く」：カラハン朝文語 kod～kodu「種類, 属」(Ramstedt1949:99)。周知のようにこの中期韓国語 gAd は, かつて日本語 götō-si「如し」と比較された(河野六郎 1979:561)。

(12) 中韓 gArAm (平去)「川, 湖」：蒙古文語 ɣoriqa「川, 小川」, ハルハ・モンゴル語 gorxi「同」(Poppe1950:574)。李基文(Lee1958:111)は, この「川, 湖」を意味する中期韓国語単語を満州語 golo「川床」と比較しているが, 本稿ではポッペ説に従う。満州語 golo は本稿では, (89)で別の韓国語単語と比較される。

(13) 中韓 gArβ- (平)「並ぶ, 匹敵する, 重なる, 並べる, 重ねる」：エベンキ語 kolbo-「積み重ねる」, ソロン語 xolbo-「結合する」, 満州語 holbo-「結び付ける, 対にする」：蒙古文語 qolbu-「結び付ける」, ハルハ・モンゴル語 xolbo-「同」, プリヤート語 xolbo-「同」：オイロート語 kolbo-「同」, テレウト語 kolbo-「同」(Lee 1958:112, 金東昭 1981:48)。

(14) 中韓 gArg- (平)～gīrg- (平)「搔く, 削る」：エベンキ語 kolki-「砕く」, ラムート語 kolkə-「皮を剥ぐ」, 満州語 kola-「剥ぐ」。

(15) 中韓 gAri- (平去)「覆う, 遮る」：ソロン語 xori-「閉じ込める」, ナーナイ語 kori-「垣で囲む」, 満州語 hori-「監禁する」：蒙古文語 qori-「閉じ込める」, ハルハ・モンゴル語 xori-「封鎖する, 閉じ込める」(Ramstedt 1949:98)。

(16) 中韓 gAz- (平)「切る」：エベンキ語 osi-「引搔く」, ラムート語 osi-「同」, オルチャ語 xosi-「同」, ナーナイ語 xosisi-「同」, 満州語 waša-「同」。これは新しい比較であるが, 問題はオルチャ語, ナーナイ語に見られる語頭子音 x-である。筆者はかつてこの南ツングース語の x-と韓国語の h-の起源的關係を考えたことがあるが, 今でもその説は有力だと思っている。次の(17)の比較はその考えに基づくものである。

(17) 中韓 hArg (平)「土」：オルチャ語 xolo-「汚す」, ウイルタ語 xolokto～xonokto「砂, 泥」, 満州語 hoila-「(油がにじんで)汚れる」(大林直樹 1990:369)。

(18) 中期韓国語 mAnʒi- (平去)～mAni- (平去)「触れる」：エベンキ語 moni-「揉む, 捏ねる」, ラムート語 monɣə-「同」, オロチ語 moɟiči-「同」, ウイルタ語 monʒi-～monʒu-「同」, 満州語 monji-「同」(Lee 1958:114)。中期韓国語では, mAnʒi-と mAni-が併存していたが, 現代語では mAnʒi-の

発達形である *manʒi-*のみが用いられる。

(19) 中韓 *mAr* (平)「馬」：ラムート語 *muren*「同」, ネギダル語 *mojin*「同」, オルチャ語 *muri* (n-)「同」, ナーナイ語 *morin*「同」：蒙古文語 *morin*「同」, ハルハ・モンゴル語 *mor'*「同」, モンゴル語 *mori*「同」, モゴール語 *morin*「同」(Ramstedt 1949:138)。

(20) 中韓 *mAy-* (平)「結ぶ」：エベンキ語 *bök-*「結ぶ, 縛る, 停滞する」, ラムート語 *bok-*「引き留める」, ナーナイ語 *boki-*「結ぶ, 縛る」：蒙古文語 *boγu-*「結ぶ」, ハルハ・モンゴル語 *boo-*「包む, 結ぶ, 縛る」(Ramstedt 1982:101)。

(21) 中韓 *pAr-* (平)「売る」：蒙古文語 *borula-*「転売・競売される」, ハルハ・モンゴル語 *borl-*「同」。

(22) 中韓 *pAsg* (去)～*pAč* (去)「小豆」：エベンキ語 *bosokto*「腎臓」, ウデヘ語 *bökto*「同」, ナーナイ語 *bosokto*「同」, 満州語 *bosho*「同」。この比較の意味の問題については, 現代韓国語の *koŋpat*「大豆と小豆, 腎臓」を参照されたい。

(23) 中韓 *sArg* (平)「狸, 山猫」：エベンキ語 *sulaki*, *sulaj*「狐」, ソロン語 *sulaki*「同」, ラムート語 *hulæ*「同」, ネギダル語 *solaxi*「同」, オロチ語 *sulaki*「同」, オルチャ語 *suli*「同」, ナーナイ語 *solī*「同」：蒙古文語 *sol-ungya*「イタチ」, ハルハ・モンゴル語 *solongo*「同」(Ramstedt 1949:221)。

(24) 中韓 *tA-* (去)「燃える, 焼ける」：エベンキ語 *toγo*「火」, ネギダル語 *tō*～*toγo*「同」, オロチ語 *tō*「同」, オルチャ語 *tawa*「同」, ナーナイ語 *tawa*「同」(Ramstedt 1949:278)。

(25) 中韓 *tA-* (去)「乗る, 登る」：エベンキ語 *dō-*「(鳥が)止まる」, ラムート語 *dō-*「同」, ウデヘ語 *dō-*「同」, ナーナイ語 *dō-*「同」, 満州語 *do-*「同」：蒙古文語 *doγuyur*「下に, 低く」, ハルハ・モンゴル語 *dooguur*「同」。この比較は本稿で初めて提起されるものである。意味的に難点がないとは言えないが, 比較を不可能とするほどではないように思われる。

(26) 中韓 *ʒAmA-* (平平)～*ʒAm-* (去)～*ʒAmg-* (去)「潜る, 浸る, 沈む」：中期チュルク語 *čom-*「沈む, 浸る, 泳ぐ」, チャガタイ語 *čom-*「同」(Ramstedt 1949:21)。

(27) 中韓 *ʒAFA-* (平平)「切る, 絞める」：ネギダル語 *čöli-*「切り取る」, オルチャ語 *čäli-*「同」, ナーナイ語 *čäli-*「同」, 満州語 *coli-*「彫る」(大林直樹 1989:74)。

### 3. 祖語 \*o : 韓国語 u の対応

(28) 中韓 buri (上平)「嘴, 突端部」: エベンキ語 horon「頭頂, 頂点, 冠毛」, ネギダル語 xojon「頭頂, 頂点」, ウデヘ語 xō (n-)「(～の) 上の部分」, オルチャ語 poro (n-)「頭頂, 頂点」, ナーナイ語 poron「頭頂, 頂点, 表面」, 満州語 foron「施毛」: 中期モンゴル語 horai「頭頂, 頂点」, ハルハ・モンゴル語 oroj「同」, プリヤート語 oroj「同」: テレウト語 oroj「施毛」, ヤクート語 oroj「頭頂, 頂点」(Lee 1958: 110)。この比較は李基文に従ったものであるが, 最近スターロスチン (Starostin 1991: 283) は別の可能性として, ウイグル語 burun「鼻」とこの中期韓国語 buri との比較を提起しており注目される。

(29) 中韓 dup- (平) ~ dɔp- (平)「覆う, 蓋をする」: 満州語 dohton「外包み, 外袋, 本の表紙」, dohtolo-「覆う, 被せる」(Lee 1958: 107)。

(30) 近韓 guḡduḡi「尻」: エベンキ語 kunduki ~ kunḡuki「(動物の) 尻」, 満州語 konsun「肛門」: 蒙古文語 qong「尻の盛り上がり」, qundulai「尻」, ハルハ・モンゴル語 xong「尻の盛り上がり」(Pope 1960: 71)。

(31) 中韓 gungir- (平)「空である, 空洞である」: エベンキ語 koḡgilbu-「空洞のものを叩く」, ラムート語 kōḡik「空洞のもの」, ウデヘ語 koḡko-「固いものを叩く」, オルチャ語 kuḡku-「空洞のものを叩く」: 蒙古文語 qoḡgil「空洞」, ハルハ・モンゴル語 xoḡgil「同」, プリヤート語 xongi「同」(Ramstedt 1982: 97)。ラムステットによる比較であるが, ツングース語の諸形式が挙げられるのは本稿が最初である。

(32) 中韓 gur- (上)「嘘をつく」: エベンキ語 kolo「狡い」, ナーナイ語ピキン方言 xolto-「欺く」, 満州語 holo「嘘」(Lee 1958: 112)。ツインツイウスら (Cincius et al. 1975: 407) は, この比較に更に, 蒙古文語 kola「遠い」を加えるが, 意味の違いについて何の説明もされていない。

(33) 中韓 guri- (平)「臭い」: 満州語 kolongso「汗の臭い, 腋臭」: 蒙古文語 qolongso「腋臭」: カザフ語 kolaḡsa「悪臭」, ヤクート語 xologso「腋の下」(Lee 1958: 114)。

(34) 現韓 guri-「転がる」: エベンキ語 olonmu-「踊る」: 蒙古文語 qolki-「前後に動く, ぶらつく」, ハルハ・モンゴル語 xolxi-「同」(Starostin 1991: 288)。

(35) 中韓 gus (平)「隅, 角」: エベンキ語 kočo「湾曲, 岬, 島」, ラムー

ト語 koč 「曲がり道, 湾曲」, ウデヘ語 koso (n-) 「隅, 角」, 満州語 koco 「曲がった所」, hošo 「隅, 角」 (Lee 1958: 112)。

(36) 中韓 guy (去) 「耳」: ラムート語 oiwun 「耳輪」, ウデヘ語 waiga 「同」, オルチャ語 xoipo (n-) 「同」, ナーナイ語 xojpon 「同」 (Ramstedt 1982: 94)。

(37) 中韓 guž- (平) 「悪い」: ネギダル語 gosowlā- 「叱る, 罵る」, オロチ語 gosola- 「同」, オルチャ語 gosolo- 「同」, ウイルタ語 gosi- 「叱る, 罵る, 嫌う」, ナーナイ語 gosōla- 「叱る, 罵る」。この比較も本稿において初めて提起されるものであるが, 中期韓国語にはまた gužiž- 「叱る」という動詞語幹が存在し, ここに挙げた guž- 「悪い」と語源的に関係があるかも知れない。

(38) 近韓 huy- 「反る, 曲がる」: オルチャ語 xoi- 「曲げる, たわめる」, ナーナイ語 xoi- 「同」 (Ramstedt 1982: 55)。

(39) 中韓 mudiy- (去) 「鈍い」: オルチャ語 mudufu 「鈍い, 粗野だ」, ナーナイ語 modoko 「同」, 満州語 modo 「同」: ヤクート語 modorōn 「粗削りの」 (Lee 1958: 114)。

(40) 中韓 muruy (去平) 「雹, 霰」: エベンキ語 bōna 「同」, ソロン語 bōno 「同」, ラムート語 bōt 「同」, ネギダル語 bokta 「同」, ウデヘ語 bono 「同」, ナーナイ語 bōno 「同」, 満州語 bono 「同」 (金東昭 1981: 117)。

(41) 中韓 nuri- (去去) 「稲むらを積む」: 満州語 nora- 「草木を積み上げる」: 蒙古文語 norum 「積材」, norumla- 「丸太を積む」, ハルハ・モンゴル語 norom 「積材」, noroml- 「丸太を積む」 (Lee 1958: 116)。

(42) 中韓 sum- (去) 「隠れる」: エベンキ語 sōm- 「閉じる, 覆う」, ラムート語 hōm- 「同」, ネギダル語 sōm- 「同」, オルチャ語 somi- 「同」, ウイルタ語 somi- 「同」, 満州語 somi- 「隠す, しまう」 (Lee 1958: 117)。

(43) 現韓 sur 「房」: ナーナイ語 sorso 「花, 雄しべ, 雌しべ」, 満州語 sorson 「葱の花, 房」: 蒙古文語 sor 「(ある種の動物の) 毛」 (Lee 1958: 117)。

(44) 中韓 suy- (上) 「息をする」: テレウト語 sōl- 「嘆息する」, オスマン・トルコ語 solu- 「息をする」, チャガタイ語 sola- 「同」。

(45) 中韓 uhum (平去) 「一搦い」: ネギダル語 oxodo 「一抱え」, ナーナイ語 oxoj 「一掴み」, 満州語 oholiyo 「一搦い」, oholiyo- 「(手で) 搦う」。

(46) 中韓 ur- (上) 「泣く」: 蒙古文語 orila- 「泣く, 叫ぶ」, ハルハ・モンゴル語 oril- 「同」。

(47) 中韓 *ʒur* (去)「線, ライン, 紐, 糸, (文章などの) 行, 方法, すべ」: 蒙古文語 *ʒol*「幸運, 運命」, ハルハ・モンゴル語 *ɬol*「同」: 中期チュルク語 *jöl*「道, 方法, 旅」, オスマン・トルコ語 *jol*「道, 方法, 筋, 線」, ヤクート語 *suol*「運命」(Ramstedt 1982: 41)。中期韓国語や現代韓国語の辞書では、「線, ライン, 紐, 糸」を意味する *ʒur* と「方法, すべ」を意味する *ʒur* とは別の見出し語になっているが, 筆者は語源的に関連があるのではないかと考えている。オスマン・トルコ語 *jol* の持つ意味が示唆的である。

#### 4. 祖語 \*o: 韓国語 ㅁ の対応

(48) 中韓 *bodir* (平去)「柳」: ウイルタ語 *potokto*「柳の細枝」, ナーナイ語クル・ウルミ方言 *fotoxa*「サル柳」, 満州語 *fodo*「柳の枝」(Lee 1958: 109)。

(49) 中韓 *bog-* (平)「(~に) 次ぐ」: エベンキ語 *bokon-*「追い付く, 返報する」, ソロン語 *boxon-*「追い付く」, ラムート語 *bokan-*「追い付く, 返報する」, ネギダル語 *boxon-*「追い付く」, オロチ語 *bō-*「同」, ウデヘ語 *b'ono-*「同」, ナーナイ語クル・ウルミ方言 *bokogŋi-*「同」。

(50) 中韓 *boh-* (平)「切る」: エベンキ語 *hōy-*「切り取る, 切り倒す, 切り殺す, 刈り取る」, ラムート語 *hōn-*「切り取る」, ネギダル語 *xoŋni-*「切り取る, 切る」, オロチ語 *xoi-*「切り取る」, ウデヘ語 *xuai-*「同」, ナーナイ語クル・ウルミ方言 *xoi-*「切り離す」: 中期モンゴル語 *hoqta-*「切る」, ハルハ・モンゴル語 *ogti-*「同」, プリヤート語 *otol-*「同」。この比較も本稿で初めて提起されるものであるが, 別の可能性としては中期チュルク語 *boɣra-* ~ *boyar-*「切り刻む」との対応も考えられよう。

(51) 中韓 *borɔ* (平平)「腕抜き」: ネギダル語 *bolan*「袖当て」, ウイルタ語 *bolo*「袖口の折り返し部分」, ナーナイ語 *bōlo*「同」。この比較も新しいものであるが, 借用の可能性もないとは言えない。

(52) 中韓 *gom-* (上)「黒い」: エベンキ語 *koŋnomo*「同」, ラムート語 *kōnrgə-*「黒くなる, 暗くなる」, ネギダル語 *koŋnijin*「黒い」: 蒙古文語 *qongγur*「黄褐色の」, ハルハ・モンゴル語 *xongor*「淡黄色の」(Poppe 1950: 575)。

(53) 中韓 *gopum* (平去)「泡」: ネギダル語 *xojso*「同」, オルチャ語 *xojsa*「同」, ナーナイ語 *xoiksa*「同」, 満州語 *hofun*「同」(Ramstedt 1954: 10)。この諸形式と蒙古文語 *kogesün*「同」, オスマン・トルコ語 *köpük*「同」など

が如何なる関係にあるかという問題は今後の課題としたい。

(54) 中韓 gor- (上)「滞る」：エベンキ語 goro「遠く、長く、遠い、長い」、ラムート語 gor「同」、ネギダル語 gojo「同」、オロチ語 gō「同」、ナーナイ語 goro「同」、満州語 goro「遠い」。

(55) 中韓 goyu (平去)「ガチョウ」：エベンキ語 gōn「脱毛期のガチョウ」、ラムート語 gōr「脱毛期の鳥」、ウイльта語 gorī「同」、ナーナイ語 gorī「同」、満州語 gokji「脱毛した鳥」。

(56) 中韓 mōmir- (平去)「とどまる」：満州語 momoro-「居座る」(Lee 1958: 114)。

(57) 中韓 mōj'oy (平去)「首木」：チャガタイ語 boj「首」、ヤクート語 moj~mōj「物の頸部、首」、カザフ語 mojn「首木」、ウイグル語 bojun「同」(Räsänen 1969: 80)。

(58) 中韓 nyo- (去) ~ni- (去)「行く、通う」：エベンキ語 n'ō-「追い越す」、ラムート語 n'ōγ「行く、先に行く」、ウデヘ語 n'ō-「先に行く」、オルチャ語 n'oro-「進む」。

(59) 中韓 ori- (平去)「性交する」：蒙古文語 oruya「交尾期」、oru-「交尾期が始まる」。

(60) 中韓 sōrg (平)「(樹木の若枝で編んだ)行李」：オルチャ語 soro「魚を入れて運ぶ籠」、ナーナイ語 soro「同」、満州語 šori「ザルの類」。この比較はまた別の可能性として、中期韓国語 sora (去去)「盆」との対応が考えられなくもない。

(61) 中韓 sōri (去平)「間、中」：エベンキ語 sōl-「混ぜる、結合させる」、ネギダル語 sōl-「同」、オロチ語 soli-「混ぜる」、オルチャ語 soli-「同」、ナーナイ語 solī-「同」。

(62) 中韓 3or- (上)「びっこをひく」：中期チュルク語 ɕolak「片腕の」、ウイグル語 ɕol-「体の一部を切り取られる」。

(63) 中韓 3yog- (上)「少ない、小さい」：エベンキ語 3okē「小さい」、オロチ語 3ayəbi「大きくない」。

## 5. 祖語 \*o: 韓国語 i の対応

(64) 中韓 bīri- (平平)「満腹である」：蒙古文語 bordu-「太らせる、肥沃にする」、ハルハ・モンゴル語 bord-「同」：チャガタイ語 borday「太い、



厚い」。別の可能性として、エベンキ語 *burgu* 「肥えた, 太った, 皮下脂肪」, ラムート語 *bərgə* 「同」, オロチ語 *boggo* 「同」, ナーナイ語 *bujgu* 「同」などのツングース語諸形式との比較も考えられるかも知れない。

(65) 中期韓国語 *bit-* (平) 「付く, 拠る」: エベンキ語 *bodo-* 「(～のあとに) 従う, 伴う」, ラムート語 *bod-* 「同」, ウデヘ語 *bodo-* 「同」, ナーナイ語 *bodo-* 「同」: ウイグル語 *body* ~ *bodu-* 「くっついている」。

(66) 中韓 *dīd / r-* (平) 「聞く」: エベンキ語 *dōldi-* 「同」, ラムート語 *doldə-* 「聞く, 理解する」, オロチ語 *dōgdi-* 「聞く」, ウイルタ語 *dolʒi-* 「同」, ナーナイ語 *dōlʒi-* 「同」, 満州語 *donji-* 「同」 (Ramstedt 1982: 211)。

(67) 中韓 *dīr-* (平) 「持つ, 挙げる」: エベンキ語 *ʒoromi-* 「盗む」, ラムート語 *ʒorəm-* 「同」, ネギダル語 *ʒojomī-* 「同」, ウデヘ語 *ʒomi-* ~ *ʒomosi-* 「同」, ウイルタ語 *doromo-* 「同」 (ミラー 1981: 96)。ミラーはこの比較に、更に日本語 *tor-* 「取る」をも加えている。

(68) 中韓 *gīč-* (平) 「絶える, 終える」, *gīt* (去) 「終わり, 終結」: エベンキ語 *od-* 「終える」, ラムート語 *od-* 「終える, 終わる」, オロチ語 *odi-* 「終える」, オルチャ語 *xodi-* 「同」, ナーナイ語 *xoʒi-* 「同」, 満州語 *waji-* 「終わる」。ここでも、(16) の比較と同様に韓国語の語頭音 *g* にツングース祖語の語頭音 *x* が対応している点が注目される。

(69) 中韓 *gīrīh* (平平) 「株, 木の根元」: エベンキ語 *golo* 「丸太」, ネギダル語 *golo* 「同」, ウデヘ語 *golo* 「棒, 薪」, ナーナイ語ビキン方言 *gologko* 「薪」, 満州語 *golton* 「焼け残った木の株」。

(70) 現韓 *iri-* 「脅す」: エベンキ語 *olo-* ~ *olon-* 「脅える, 震える」, ラムート語 *ol-* 「同」, オロチ語 *olo-* 「同」, ナーナイ語 *olo-* 「同」。

(71) 中韓 *mīrī-* (平平) 「柔らかい, 脆い」: 蒙古文語 *moluyur* 「(刃物が) 鈍い」, ハルハ・モンゴル語 *molgor* 「同」。

(72) 近韓 *sīr-* 「(虫や魚が) 産卵する」: エベンキ語 *soro-* 「(虫が) 産卵する」, ナーナイ語 *sora* 「花粉」, 満州語 *sere* 「ウジ虫, 虫の卵」。

(73) 中韓 *sīrh-* (平) ~ *sīr-hʌ-* (去去) 「悲しむ, 厭う」: ナーナイ語 *so-ron* 「不幸, 罪」, 満州語 *soro-* 「忌む」。

(74) 中韓 *tīr* (去) 「型, 枠, 規範」: オロチ語 *doro* (n-) 「法, 習わし」, ウイルタ語 *doro* (n-) 「同」, 満州語 *doro* 「道理, 礼儀」。

## 6. 祖語 \*o : 韓国語 o の対応

(75) 現韓 *bogus* 「木の厚い皮」 : エベンキ語 *bokokto* 「球果の外皮」, *bokoto* 「球果, 木のこぶ, 芽」, ラムート語 *bokət* 「球果, 芽」, オロチ語 *bokto*, *bōto* 「球果」, ナーナイ語 *bōkto* 「球果, 松の種」, 満州語 *bahiya* 「松かさ」。

(76) 中韓 *bom* (去) 「春」 : 満州語 *fon* 「年, 時」 : モンゴル語 *fän* ~ *xuän* 「年」, 蒙古文語 *on* 「同」, ダグール語 *ōṅ* ~ *xuan* 「同」, ハルハ・モンゴル語 *oṅ* 「同」 (Ramstedt 1949 : 205)。

(77) 現韓 *bor* 「頬」 : ナーナイ語 *polčün* 「同」 (Ramstedt 1949 : 205)。

(78) 現韓 *bora* 「紫色」 : エベンキ語 *boro* 「灰色」 : 蒙古文語 *boro* 「同」, ハルハ・モンゴル語 *bor* 「同」, プリヤート語 *boro* 「同」 : ハカス語 *pora* 「同」, ヤクート語 *borog* 「同」 (Ramstedt 1982 : 160)。

(79) 近韓 (nun) *bora* 「吹雪」 : 蒙古文語 *boruyan* 「雨」, ハルハ・モンゴル語 *borō* 「同」 : オスマン・トルコ語 *bora*, *borak* 「北風, 強風, 嵐」, カザフ語 *bora-* 「強風が吹く」。

(80) 中韓 *dog* (平) 「甕」 : 蒙古文語 *toṅuyan* 「鍋, 釜」, ハルハ・モンゴル語 *toṅō* 「同」 (Ramstedt 1982 : 212)。

(81) 現韓 *doṅgir-* 「丸い」 : エベンキ語 *toṅollo* 「円, 輪, 重鉛」, ラムート語 *toṅlɾə* 「環」, ネギダル語 *toṅolo* 「同」, ウデヘ語 *toṅo* 「罌」, ナーナイ語 *toṅgopian* 「石弓の縄」 (Ramstedt 1949 : 273)。

(82) 中韓 *doṅi-* (平平) 「縛る, 束ねる, 括る」 : エベンキ語 *tomko* 「糸」, ソロン語 *toṅxo-* 「糸をよる」, ウデヘ語 *tompo-* 「同」, ナーナイ語 *tompo* 「糸」, 満州語 *tonggo* 「同」 : 蒙古文語 *tomu-* 「(紐を) よる, なう」, ハルハ・モンゴル語 *tom-* 「同」, プリヤート語 *tomo-* 「同」 (Ramstedt 1954 : 18, 金東昭 1981 : 32)。

(83) 中韓 *dor-* (上) 「回る」 : 中期チュルク語 *toṅya-* 「巻く, 玉にする」, チャガタイ語 *toṅya-* 「振り回す」, オスマン・トルコ語 *dola-* 「巻く」 (Ramstedt 1949 : 272)。

(84) 中韓 *dorh* (上) 「石」 : エベンキ語 *ṅolo* 「同」, ラムート語 *ṅol* 「同」, オロチ語 *ṅolo* 「同」, ナーナイ語 *ṅolo* 「同」 (Ramstedt 1949 : 272)。韓国語の語頭の *d* には一般にアルタイ祖語の \**d* または \**t* が対応すると見られるが, ここでは \**ṅ* が対応している。今後の考究にまつところが多いが, その他に同様の対応を示す例としては, 中期韓国語の数詞 *durh* 「2」とツングース諸語

の「2」を意味するエベンキ語 *ʒūr*, ナーナイ語 *ʒuær* などの対応や, 本稿(67)の例などを挙げる事ができよう。

(85) 中韓 *doy* (去)「升」: 満州語 *to*「升」(Lee 1958: 118)。

(86) 中韓 *god* (去)「所, 処」: 満州語 *hoton*「都城, 壁」: 蒙古文語 *qotan*「都市, 街」, ハルハ・モンゴル語 *xot*「都市, 街, 家畜舎」, プリヤート語 *xoton*「家畜舎」: チャガタイ語 *kotan*「垣, 家畜舎」, カザフ語 *kotan*「同」, ヤクート語 *xoton*「家畜舎」(Ramstedt 1949: 127)。

(87) 中韓 *goh* (去)「鼻」: 蒙古文語 *qosiyun*「鼻先, 鼻面」, ハルハ・モンゴル語 *xošū*「同」, カルマック語 *xušū*「同」(Ramstedt 1982: 100)。

(88) 現韓 *gopayŋ'i*, *gobi*「山場, 頂」: 中期チュルク語 *kop-*「上がる, 昇る」, オスマン・トルコ語 *kop-*「復活する, 砕く, 壊す」(Ramstedt 1949: 125)。

(89) 中韓 *gor* (上)「谷, 谷間」: ソロン語 *golo*「川」, 満州語 *golo*「川, 川床」: 蒙古文語 *goul*「川, 谷」, ハルハ・モンゴル語 *gol*「川, 河床」: 中期チュルク語 *kol*「河床, 低地」, ハカス語 *xol*「谷」(Ramstedt 1949: 121)。

(90) 中韓 *gor* (上)「棺」: 満州語 *hobo*「同」(Lee 1958: 112)。

(91) 現韓 *gor-*「軀をかく」: エベンキ語 *korgi-*「軀をかく, せせらぐ」, ナーナイ語 *xorgi-*「ざわつく」, 満州語 *kor*「(軀の音) グーグー」(Lee 1958: 114)。

(92) 現韓 *gor*「怒り」: エベンキ語 *koro*「毒, 害」, オルチャ語 *korun*「侮辱」, ナーナイ語 *kōro*「同」, 満州語 *koro*「恨み」: 蒙古文語 *qouran*「毒, 害」, ハルハ・モンゴル語 *xor*「同」(Ramstedt 1949: 121)。

(93) 中韓 *gor*<sub>Λ</sub> (平平)「平らだ, 均等だ, 穏やかだ」: 蒙古文語 *qoli-*「混ぜる, もつれさせる」, ハルハ・モンゴル語 *xoli-*「同」: 中期チュルク語 *koš-*「合わせる, 整える」, ショル語 *koš-*「付け加える, 混ぜる」(Ramstedt 1982: 91)。

(94) 現韓 *goray*「(オンドルの) 煙道」: ネギダル語 *xōl*「煙道」, オルチャ語 *xōli*「同」, ナーナイ語 *xōl*「同」, 満州語 *holo*「峡谷, 堀, 排水溝, 瓦溝」: 蒙古文語 *qoyulai*「喉, 管」, ハルハ・モンゴル語 *xōloj*「喉, 管, 運河, 山峡」, プリヤート語 *xōloj*「喉, 管, 煙道」: ヤクート語 *kuolai*「喉, 食道」(Cincius et al. 1975: 406)。

(95) 中韓 *gorh-* (平)「満たない, 腹をすかす」: 蒙古文語 *qoru-*「減る, 死ぬ」, ハルハ・モンゴル語 *xor-*「同」(Ramstedt 1949: 122)。

(96) 中韓 gorhoy (平去)「環」: エベンキ語 gorgi「留め金, 締め金」, ウデヘ語 guagi「同」, 満州語 gorgi「同」: 蒙古文語 gorgi, gorki「同」, ハルハ・モンゴル語 gorxi「同」(Ramstedt 1949: 126)。

(97) 中韓 gori (去去)「行李」: ネギダル語 koj「丸太で作った四角い枠」, オロチ語 koi「食糧庫」, オルチャ語 korī「熊小屋, 畜舎」, ナーナイ語 korī「熊小屋, 食糧庫」, 満州語 horin「籠, 鳥籠」(Ramstedt 1949: 125)。

(98) 中韓 go ʒo (平去)「酒搾り器」: 満州語 goci-「酒を搾る」(Lee 1958: 111)。

(99) 中韓 mog (平)「首, 喉」: エベンキ語 moʒon「同」, moʒolō-「首に何かをつける」, ネギダル語 ʒon「首, 襟」, オロチ語 ʒo (n-)「同」, ナーナイ語 ʒgon「首, 喉」, 満州語 monggon「同」(Lee 1958: 114)。

(100) 中韓 morʼay (平去)「砂」: カザフ語 bor「白亜」, ソヨート語 por「粘土」, ヤクート語 buor「土, 粘土」(Ramstedt 1949: 151)。

(101) 中韓 nop- (平)「高い」: 蒙古文語 dobu「丘」, dobʒiyān「台地, 土台」, dobuyi-「盛り上がる」, ハルハ・モンゴル語 dow「丘」, dowoy-「盛り上がる」: 新ウイグル語タランチ方言 doba「山, 堆積」, ヤクート語 doḅun「高い」。

(102) 中韓 nor- (上)「遊ぶ」: 蒙古文語 nolu-, noyula-「騒ぐ, ふざける」, ハルハ・モンゴル語 nol-「からかう, 騒ぐ」, nool-「ふざける, つかみ合う」。

(103) 中韓 nor<sub>A</sub> (平平) ~ noro (平平)「ノロ鹿」: オルチャ語 dorо (n-)「穴熊」, ナーナイ語 dorо「同」, 満州語 dorgori「野豚」: 蒙古文語 doruyān「穴熊, クズリ」, ハルハ・モンゴル語 dorgo「同」, ブリヤート語 dorgon「狐の類, 穴熊」。李基文 (Lee 1958: 108) は, ここに挙げた満州語 dorgori を意味的により直接に対応すると見られる中期韓国語 dot「豚」と比較している。

(104) 現韓 nori-「狙う」: ナーナイ語 ʒori-「狙う, 指し示す」, 満州語 jori-「同」: 蒙古文語 ʒori-「目指す, 志向する」, ハルハ・モンゴル語 dzori-「同」: カザフ語 juryi「意図的に」。

(105) 中韓 o- (去)「来る」: エベンキ語 ō-「する」, ラムート語 ō-「する, なる」, ウデヘ語 ō~ō-「する, 作る」, ナーナイ語 o-「なる, する, 作る」, 満州語 o-「できる」(Ramstedt 1982: 134)。

(106) 現韓 obog「隆起」: 蒙古文語 obuyā「積み石, 堆積物」, ハルハ・モンゴル語 owō「同」: ショル語 obā「丘」。

(107) 中韓 ogom (平去)「膝・肘のくぼみ」: エベンキ語 oyonī「腋の下」, ラムート語 oynī「同」, ネギダル語 oyonī「同」, ナーナイ語 xawani「同」, 満州語 ogo「同」(Ramstedt 1949: 174)。

(108) 中韓 om (上)「疥癬」: エベンキ語 osi-「引っ搔く」, ラムート語 osi-「同」, オルチャ語 xosi-「同」, 満州語 waša-「搔く」: 蒙古文語 osqur「樹皮を剥くこと」, ハルハ・モンゴル語 osgor「ひび, 割れ目」: チャガタイ語 os-「樹皮を剥く」(Ramstedt 1949: 177)。

(109) 中韓 on (去)「百」: 古代チュルク語 on「十」, トルクメン語 ōn「同」, ヤクート語 uon「同」(Ramstedt 1949: 177)。

(110) 中韓 or (上)「糸筋, 布目」: 満州語 olo「麻糸」: 蒙古文語 olusun「麻, 麻紐, 麻くず」, ハルハ・モンゴル語 ols「同」(Ramstedt 1949: 176)。

(111) 中韓 ora- (平平)「登る, 上がる」: 蒙古文語 oru-「入る」, ハルハ・モンゴル語 or-「同」: 中期チュルク語 orun「場所, 座席」, ヤクート語 oron「壁際の席」(Ramstedt 1949: 178)。

(112) 中韓 org- (平)「縛る」: 蒙古文語 oruḡa-~oriya-「巻く, 包む, 絡ませる」, ハルハ・モンゴル語 orō-「同」: チャガタイ語 ora-「包む」(Ramstedt 1982: 137)。

(113) 中韓 orh- (去)「正しい」: 蒙古文語 oliy「誠実, 良質」, ハルハ・モンゴル語 olig「同」。

(114) 現韓 ori-「切り取る, 切り抜く」: チャガタイ語 oj-「彫る, 削る」, トルクメン語 ōj-「掘る」, カザフ語 uj-「切り抜く, くり抜く」。

(115) 中韓 orm- (上)「移る」: エベンキ語 olo-「渡る, 横切る」, ラムート語 olāri「浅瀬, 渡し場」, 満州語 olo-「(水を)渡る」: 蒙古文語 olom「浅瀬, 渡し場」(大林直樹 1985: 167)。

(116) 中韓 oy- (上)「誤った, 左の」: 蒙古文語 oi「嫌悪, 憎悪」, ハルハ・モンゴル語 oy「同」(Ramstedt 1982: 135)。

(117) 中韓 sod- (去)「放つ, 注ぐ, こぼす」: 満州語 sota-「撒き散らす」(Lee 1958: 117)。

(118) 現韓 sog-「騙される」: エベンキ語 sōkto-「誤る」, ラムート語 hōta-「同」(Ramstedt 1949: 240)。記録上ではこの韓国語 sog-は中期語には見られないようであるが, これから派生した sogi- (平去)「騙す」は見られる。

(119) 近韓 soḡgos「錐」: 蒙古文語 šoḡqur「尖った, 先の鋭い」, ハルハ・モンゴル語 šoḡxor「同」(Ramstedt 1949: 242)。

(120) 中韓 sor (去)「松」：ラムート語 *holtin*「同」(Ramstedt 1949:240)。

(121) 現韓 *sorgay*「鳶」：エベンキ語 *čolkolgun, čolkomo*「鷲」, ネギダル語 *čolkoti*「蝶」(Ramstedt 1982:185)。

(122) 現韓 *sosirači-*「驚く」：蒙古文語 *čoči-*~*soči-*「同」, ハルハ・モンゴル語 *tsoči-*「同」：テレウト語 *čočy-*「怖くて震える」, ハカス語 *čočy-*「驚く」(Ramstedt 1949:242)。

(123) 中韓 *tob* (去)「爪」：蒙古文語 *tobsi-*「(指・爪で)弾く」, ハルハ・モンゴル語 *towši-*「同」。

(124) 中韓 *žogay* (平平)「貝」：ネギダル語 *čökta*「貝殻」, オロチ語 *čojikta*「同」, ナーナイ語 *čoikta*「同」。

(125) 中韓 *žori-* (平去)「煮る」：ウデヘ語 *čolo*「汁, スープ」, オルチャ語 *čolo-*「汁をつくる」, ナーナイ語 *čolon*「汁, スープ」, 満州語 *cola-*~*coola-*「焼く, 煮る, 炒る」

## 7. おわりに

以上見てきた決して十分とは言えないまでも、また少ないとも言えない語彙比較例から、次のようなことが言えるであろう。まず、これまでの韓国語とアルタイ諸語との比較研究において一般に信じられてきた、アルタイ祖語の \*o には韓国語の ㅏ が対応するという説は、成り立たないとまでは言えないが、余りにも多くの例外をもつということである。祖語の \*o は少なくとも韓国語の ㅏ, o, u に対応し、さらに ㅓ, i との対応も考慮に入れなければならないようである。最も対応を証明する語彙証拠が豊富なのは ㅏ ではなく o である。アルタイ祖語の \*o がこうした複雑な反映を示すに至った条件がいかなるものであったかは、現在のところは確実なことは言えない段階にあるが、\*o の前に子音が存在しない場合、すなわち \*o が語頭に立つ場合は、\*o は ㅏ にはならず、大部分が o となり少数は u, ㅓ, i となったようである。中期韓国語に ㅏ で始まる語が一つも存在しないのであるからそれは当然予想されることである。また、n および h が語頭に立つ場合は、(17)の比較を例外とするならば、\*no, \*ho は nㅏ, hㅏ とはならないということも言えるであろうが、この点については、中期韓国語に nㅏ, hㅏ に始まる語が存在することが問題となってくる。今後のさらなる考究が必要であるが、あるいはそういった語の起源に

ついで、アルタイ諸語以外の言語との比較から明らかにされるべきなのであろうか。また、声調についていうなら、中期韓国語の第一音節が平声の場合はその8割以上がアルタイ諸語の短母音に対応している（すなわち長母音との対応は2割に満たない）のに対し、中期韓国語の第一音節が去声の場合は、アルタイ諸語の短母音に対応する例が多いものの、その一方で長母音に対応する例も4割に達していることである。このような傾向は、村山七郎によって提起された韓国語とアルタイ語のアクセント・母音の長さの対応についての仮説<sup>4)</sup>に再度われわれの注目を促しているかのように思われる。最後に、本稿の(1)(3)(5)(14)(16)(21)(22)(25)(37)(44)(45)(46)(49)(50)(51)(54)(55)(58)(59)(60)(61)(62)(63)(64)(65)(68)(69)(70)(71)(72)(73)(74)(75)(79)(101)(102)(104)(106)(113)(114)(123)(124)(125)の比較は、本稿で初めて提起されるものであり、問題点も少なくないと思われるので、大方の御批判を賜りたい。

### 注

- 1) 例えば、李基文(1972:16)や金芳漢(1983:154)にそのような見解が見られる。
- 2) 本稿では以下において次のような略号を使用する。中韓=中期韓国語、近韓=近世韓国語、現韓=現代韓国語。
- 3) 中期韓国語の語形の後に( )内に示すのは当時の声調である。(平)は平声で低声調、(去)は去声で高声調、(上)は上声で上昇声調である。二音節語の場合、例えば(平去)とあるのは、第一音節が平声、第二音節が去声ということである。
- 4) この仮説については村山七郎(1983, 1984, 1988)等を参照されたい。

### 参考論著

- Cincius, V.I. et al. (1975) *Sravnitel'nyj slovar' tunguso-man' čžurskix jazykov*, 1. Leningrad.
- Lee Ki-Moon (李基文). (1958) A comparative study of Manchu and Korean. *Ural-Altische Jahrbücher*, 30, Heft 1-2.
- Poppe, N.N. (1950) Review of Ramstedt(1949). *Harvard Journal of Asiatic Studies*, 13.
- Poppe, N.N. (1960) *Vergleichende Grammatik der altaischen Sprachen, Teil 1, Vergleichende Lautlehre*. Wiesbaden.

- Ramstedt, G.J. (1949) *Studies in Korean Etymology*. Helsinki.
- Ramstedt, G.J. (1954) *Additional Korean Etymologies*. Helsinki.
- Ramstedt, G.J. (1982) *Paralipomena of Korean Etymologies*. Helsinki.
- Räsänen, M. (1969) *Versuch eines etymologischen Wörterbuchs der Türk-sprachen*. Helsinki.
- Starostin, S.A. (1991) *Altajskaja problema i proisxoždenie japonskogo jazyka*. Moscow.
- 大林直樹 (1985) 「韓国語派が提起する二つの問題」『日本文化研究』創刊号 (韓国外国語大学校)
- 大林直樹 (1989) 「日本語の朝鮮語, アルタイ諸語との比較」『文芸・言語研究言語篇』15号 (筑波大学文芸・言語学系)
- 大林直樹 (1990) 「ツングース祖語 \*x-と朝鮮語」『外国語教育論集』12号 (筑波大学外国語センター)
- 金 東昭 (1981) 「韓国語 oa TUNGUS 語 iy 音韻比較研究」『暁大論文集』(暁星女子大学校) 金芳漢 (1983) 『韓国語 iy 系統』Seoul
- 河野六郎 (1979) 『河野六郎著作集 1』平凡社
- ミラー, R. A. (1981) 『日本語とアルタイ諸語』(西田龍雄監訳) 大修館書店
- 村山七郎 (1983) 「原始アルタイ語の母音の長さの日本語における reflex」『京都産業大学国際言語科学研究所所報』第5巻第1号
- 村山七郎 (1984) 「日韓語比較とアクセント」『月刊韓国文化』1984年4月号
- 村山七郎 (1988) 『日本語の起源と語源』三一書房
- 李 基文 (1974) 『改訂国語史概説』Seoul